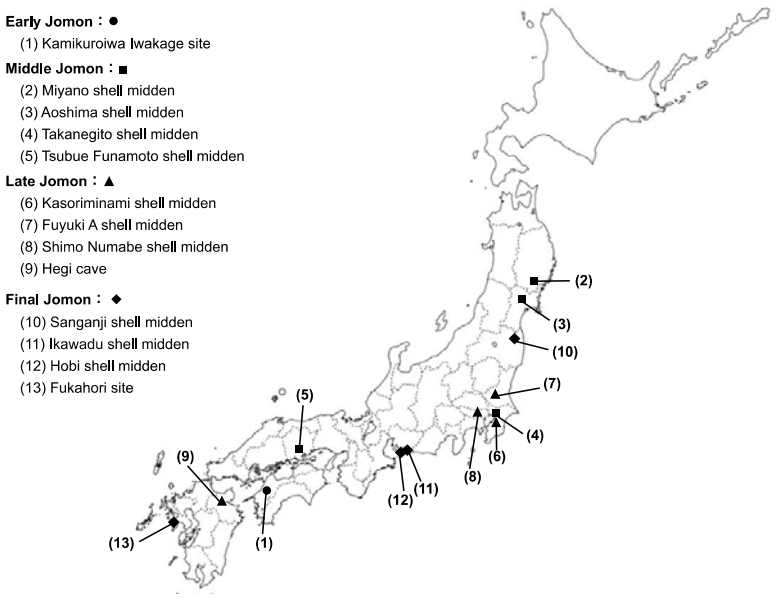
＜業　績＞

山口大学国際総合科学部中尾助教、岡山大学大学院社会文化科学研究科の松本直子教授らの共同研究グループは、日本の縄文時代における受傷人骨データを用い、日本先史時代の狩猟採集生活における暴力による死亡率を定量的に明らかにしました。さらに、このデータをヨーロッパやアメリカ、アフリカなどのデータと比較し、「戦争は人間の本能である」というホッブズ以来の主張が裏付けられるかどうかを検証しました。もし人間の暴力的な本能ゆえに戦争が頻繁に起こるのであれば、日本でも狩猟採集生活時代から戦争を含む暴力による高い死亡率が時期、地域を問わず現れるはずです。本研究の結論として、日本先史時代においては、一貫して他の地域よりもはるかに低い暴力死亡率が確認され、戦争が人間の本能に根ざしているという主張は再考を迫られることになります。



図：縄文時代の各時期における暴力の証拠が見つかった遺跡の時期別分布図。
総数 242 カ所の遺跡のうち、13 カ所から受傷人骨が出土。

＜背　景＞

近年多くの研究者が世界各国の考古学的・民族学的データを用い、戦争が先史時代から盛んに行われ、「戦争は人間の本能である」と主張してきました。さらにヨーロッパを中心に、大量虐殺を示唆する狩猟採集民時代の人骨が発掘され、著名な雑誌（Nature や Science など）で報告され、先ほどの主張の裏付けだとされてきました。しかし、こうした主張はあくまでもヨーロッパや北アメリカ、またはアフリカのごく一部の遺跡で発掘された人骨データに依拠したものであり、人類全体に一般化できるかどうかが疑問でした。また、日本先史時代に関しては人骨に関するさまざまな研究が蓄積されているにもかかわらず、世界的な議論の中では考察の対象になっていませんでした。

＜見込まれる成果＞

「いつから人間は戦争を行っていたのか」という問題は、哲学から人類学まで、分野を超えて研究されてきました。有史以来繰り広げられてきた有名無名の戦争や一部の注目を集めやすい遺跡だけを見ていれば、人間はこれまでずっと戦争を行ってきたかのように思えますが、本研究からは地域や時代によって、戦争のない時代もあるとわかります。

また、戦争が人間の本能ゆえであり、人間は戦争を避けられないというのであれば、現代に至っても戦争や紛争が絶えない現状をたやすく理解できるかもしれません。しかし本研究は、戦争が人間本能に根ざしたものと簡単にいうことはできず、他の要因にその原因

を求めなければならないと示しています。戦争や紛争を回避するためには、その要因の解明が必要となります。

＜論文情報等＞

論文名：Violence in the prehistoric period of Japan: the spatiotemporal pattern of skeletal evidence for violence in the Jomon period

「日本先史時代における暴力：縄文時代における人骨データの時空間パターン」

掲載誌：*Biology Letters* doi: 10.1098/rsbl.2016.0028

著者：中尾央, 田村光平, 有松唯, 中川朋美, 松本直子, 松木武彦

＊本研究は、日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業『歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築』」、岡山大学機能強化戦略経費「物質文化の定量的解析による時空間文化動態の学際研究」の支援を受けています。

＜補足・用語説明＞

[1] 暴力と戦争

集団間の組織的な戦闘行為である戦争は、広義の暴力に含まれる。したがって、暴力による死亡率は戦争による死亡率より高くなるはずである。本研究は、暴力による死をすべて含めた率を算出したが、それでも世界各地の狩猟採集社会における戦争による死亡率よりはるかに低く、したがって戦争による死亡率は、戦争があったとしてもさらに低いことが分かった。

[2] 受傷人骨

暴力によって傷を与えられたと推測される人骨。さまざまな武器が刺さっていたり、首が切り取られていたりする。

[3] Biology Letters

イギリスの Royal Society が発行している生物科学関係を専門とする短報雑誌。200 年以上の歴史を持つ Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences から分かれ、新規性の高い研究を掲載する雑誌として 2005 年から刊行されている。

[4] トマス・ホッブズ（1588-1679）

17 世紀の哲学者。「万人の万人に対する闘争」というフレーズで有名。

●この件に関する詳細は下記までお問い合わせください。

山口大学国際総合科学部

中尾　央　助教

〒753-8511 山口市吉田 1677-1

TEL:０８３－９３３－５４７０

e-mail　nakao@yamaguchi-u.ac.jp